

2023年度 学校自己評価シート (浦和実業学園中学校・中高一貫部)

目指す学校像	「実学に勤め徳を養う」(校訓)に則り、円満な人格、健康な身体、豊かな教養を備え、勤労と責任を重んじる国家社会の有為な形成者を育成する。
--------	---

各学年の表記について…中学校1年生・2年生・3年生:「1年生・2年生・3年生」、高校1年生・2年生・3年生:「4年生・5年生・6年生」

重点項目	<ol style="list-style-type: none"> 1) クラス活動や行事を通じて、豊かな人間性と学校での好ましい人間関係づくりを推進する。(徳育) 2) 実学教育の実践として行われている特色ある教育活動を通じて異文化理解を深め、学ぶ意欲を養う。(英語イマージョン教育の推進) 3) きめ細かな学習指導により、基礎学力の定着と実践的学力の伸長を図る。(学力の向上) 4) 6年間を見据えたキャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの進路実現を図る。(進学実績の向上) 5) 一貫部全教職員で生徒募集活動に積極的に取り組む。(募集定員の確保と受験者数の増加)
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者 懇話会委員5名 学校関係者6名

学 校 自 己 評 価		2023年度評価		
年度目標		達成状況	達成度	
番号	現状と課題	具体的方策	次年度への課題と改善策	
1	<p>○日本の若者は自己肯定感が低いと言われて久しいが、本校の生徒にもその傾向が見られる。自己肯定感を高めるためには本校が大事にしている徳育教育を通して、お互いを尊重し、自分で考え行動する力を育成することが急務である。</p> <p>○一貫部の強みである中高全体で取り組める行事を増やし、先輩、後輩の縦の繋がりを意識させる。また、生徒たち自らが興味を持って取り組む行事や委員会など各種活動を増やし、運営面も生徒たちに任せていく体制を整えていく。それには教員側が先回りせずに俯瞰する姿勢を持つことが必要である。</p> <p>○防災学習について、毎年実施できるような企画を確立したい。また、強歩大会は一貫4・5年生にも広げて実施したい。</p>	<p>○担任と生徒との二者面談や保護者面談などの機会をできるだけ多く持ち、生徒理解に努め、保護者が相談しやすい環境を整えていく。</p> <p>○SNSに関わるトラブルの未然防止のための講習を実施する。</p> <p>○ホームページが刷新され、内容の充実を図る観点から中高一貫部のInstagramを開設し、生徒たちによる委員会を立ち上げる。このことは広報活動だけでなく、生徒たちの自主性や愛校心を高める効果が期待できる。</p> <p>○強歩大会は中学校1年生から4年生までで行う予定である。また、中学校の行事であった合唱祭やスピーチコンテストを高校生も含めて実施を検討したり、昨年から一貫部だけで行なっているスポーツフェスティバルを今年も同様の形式で行いたい。</p>	<p>○今年度より高校主任(4年から6年を統括)が任命され、保護者会を主任主導で開催できるようになった。これにより、平日実施の保護者会を土曜日に変更したことで出席者が増えた。</p> <p>○NTTドコモのスマホ・ネット安全教室を中学1年生対象に実施した。</p> <p>○ホームページの刷新で学内外からの苦言が大幅に減少した。6/5開設のInstagramは12/1現在のフォロワーが420名で、投稿は60回あった。アピールだけでなく愛校心向上の効果が期待できる。</p> <p>○6/3実施予定の防災学習を兼ねた強歩大会は雨天中止となった。スポーツフェスティバルは10/7に晴天の彩湖グラウンドで行われ、300名近くの保護者が来場した。11/22の大宮ツギシティ小ホールでの合唱祭には1~4年生が参加し、約150名の保護者が来場した。</p> <p>○5/15オープンUIカフェは中学生があまり利用できないため、7/7、10/26に中学校全体でランチ会を開催した。</p>	B
2	<p>○一貫部の特異性である英語イマージョン教育を広くアナウンスするために、これまで取り組んできた内容をブラッシュアップするとともに、英語力の向上を目指して、新たな事業を展開していく必要がある。</p> <p>○塾関係者や教育機関の方から英語イマージョン教育を通して得られた成果を数値化する重要性を指摘されることが多いため、それに応えるべくエビデンスを求めていくことが重要である。</p> <p>○ネイティブ教員とホームルームや授業以外で接する機会をより多く設け、生徒たちのスピーキング能力を高めるプログラムを構築したい。</p>	<p>○昨年実施している海外大学進学支援システム「Study Abroad Plus(以下:SAP)」だが、今年度は内容を進化し、高校生向けにスカウト制度を導入した。これにより、「現在の学力でどのレベルの海外大学に合格できるか」といった可能性を知ることができるので、生徒たちの英語学習の意欲が増すことに期待したい。</p> <p>○一貫部には英語力をもっと伸ばしたいと強く望む生徒が多いため、今年度からEdTechプログラム「インスパイア」を導入した。これにより世界中で活躍する大人たちの生き方や価値観を日本語だけでなく英語で知ることができ、また、それについて他者と対話ができるので、満足度を高めていきたい。</p>	<p>○中学生、高校生で海外留学・進学に関して意識が異なるため、今年度はSAPの講演を中高別に実施した。中学生には進学よりも留学を中心に、高校生にはスカウト制度説明会(7/18)を含め、海外大学進学にハードルを持たせないようにした。アンケート(回答数255名)集計を見ると、生徒・保護者とも半数以上が海外進学に関心を持つようになったことがわかる。特にその傾向は中学生に多い。</p> <p>○「インスパイア」により、世界との距離が近くなったと実感する生徒が増えた。コンテンツのガイドが話す完璧でない英語に触れたことで、英語を表現のツールとして「自分も英語を使いたい」と考えられるようになったのが要因として挙げられる。</p>	A
3	<p>○本校の入試形態は2・4科入試型、適性検査型、英語入試型と多様なため、受験してきた入試回によって、科目ごとに個々の学力差がある。その差を埋める学習方法の確立を目指していくことが課題である。</p> <p>○2022年度より高校も新学習指導要領が実施され、中高とも全面実施となった。新学習指導要領のポイントは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる資質・能力をバランスよく育てることにあるので、一つに偏ることなく、教授法を考える必要がある。</p>	<p>○2022年度より本格導入した放課後学習の「学びPlus」は、今年度、必須学年が4・5年生となり、他学年は希望制にしている。必須学年の利用促進のため、朝テストの居残りやチューター講師との座談会などの企画を積極的に行うなど、学年と協力して生徒たちが学びに向かうような工夫が必要である。</p> <p>○左記の3つの柱の中で特に「学びに向かう力、人間性など」を養うにはタ認知が欠かせない。一貫部ではエゴグラムを実施しているが、学習の質を高めるために個々の結果を有効に使い、面談などを通して、計画的に学習する態度を育てていく。</p>	<p>○「学びPlus」は必須学年を4・5年生とし、朝テストの居残りやプリントの作成、常備などの工夫をしたが、利用状況があまり捗々しくない。中学生は希望制ではあるが、マンツーマンの個別指導を受講する者も多く、利用状況は良好である。</p> <p>○エゴグラムの結果は面談などを通じてフィードバックをしている。その中で、すべての学年に共通する課題が自立した学習の欠如である。これを育成するために、セルフスタディノート(自学習)を毎日提出させたり、4年~6年まで「勉強マラソン」と称し、GWや長期休業中に学校で自習を行なうなどの指導を行なった。</p>	B
4	<p>○大学入試も様々な選抜方法があり、個々の希望やレベルによる進路指導が必要になってきている。生徒たちの将来に繋がる選択ができるよう、一貫部全体で取り組む必要がある。</p> <p>○今年度は大学見学会や進路講演会などコロナ以前の進路学習が実施できつつある。また、中学生はさいたま市主催の「あんたれすくーる」の中止以降、職業体験を独自に実施しており、将来に対する意識を抱かせることが課題である。</p>	<p>○昨年度、一貫部全体を統括する一貫部主任の役職を設置したが、中学生と高校生では成長課程や取り組みが異なるため、今年度より中学校主任と高校主任を置くことにした。これにより、中学校主任は主に生活指導や心のケア、高校主任は進路学習に特化して指導に当たることができる。</p> <p>○4年生が大学見学会、中学校2年生が職業体験を実施予定で、他の学年においても学力向上に根付いた行事を行い、進学実績向上に結び付けていきたい。</p>	<p>○上記1とも重なるが、高校では高校主任による進学関連の行事・講演会の実施、進学通信の発行などを。中学では中学主任が進路決定に資するための職業体験や社会見学などの各行事をそれぞれ学年教員と相談しながら実施できるようになった。これにより教員、生徒の一体感が育まれてきた。</p> <p>○通常行なっている各学年行事に加え、コロナが収束に向かってきたため、6/14大学見学会(4年)、7/18外務省による外交官講演会、7/11一貫部全体部会、10/21出願に関する保護者会(6年)などの多くの行事を実施した。</p>	A
5	<p>○2023年度入試は良好の結果であったが、これに甘んじることなく、教職員全体で生徒募集に取り組む必要がある。生徒募集は私学の根幹であり、少子化の影響を受けず本学が継続していくために必要不可欠であることを改めて認識させていく。</p> <p>○適性検査型入試の志願者が増加しているため、公立中高一貫校には見られない魅力を効果的にアピールし、入学に結びつける企画を考えていきたい。</p> <p>○コロナ禍以前に実施していた外部説明会も今年度は多く開催されるようになるので、積極的に参加していく必要がある。</p> <p>○本校の入学生には在校生や卒業生の子女や弟妹が多いので、そうした家庭に訴求できるような取り組みを考えていきたい。</p>	<p>○本校を試験会場とする公開模試を昨年よりも増やしていく。現在のところ、7月と9月に首都圏模試、11月には四谷大塚公開組分けテスト、12月に日能研模試を行う予定であり、同時に説明会を実施する予定である。</p> <p>○公立中高一貫校合格対策の塾の集まりや説明会などに積極的に出向き、併願受験を勧められるようアナウンスをする。</p> <p>○本校の説明会は様々な生徒が運営を手伝ってくれるので、参加した受験生や保護者から好評を得ている。このことは1年生の入学後のアンケート結果からも窺い知ることができる。60%近くの生徒が自分の意思で本校への入学を決定したとの回答であった。受験生本人にアピールするため、さらに在校生の力を借りていきながら、説明会を運営していきたい。</p>	<p>○7/9、9/18、11/19に首都圏模試、9/3に四谷大塚の公開模試を実施した。また、12/17に四谷大塚、12/23に日能研の公開模試を実施予定である。これらの実施日に行う学校説明会に参加した保護者が本校に興味を持ち、通常説明会に出席するケースがアンケート結果から判明した。また、「学びPlus」を委託しているスクール・マス主催でマスに通塾する受験生保護者対象の学校説明会を11/1に実施した。</p> <p>○塾訪問は生徒募集において重要であるが、通常業務の傍らで思うように訪問できないため、今年度は一部を外部業者に委託した。運営する塾の地区長や教室長の会議(6/9・12/8)で本校の魅力を訴求できるというメリットもある。また、適性検査型試験を実施し、本校との併願も多い東京北区の桜丘中学校との合同説明会を11/4に実施した。</p> <p>○説明会を効果的に運営するため、これまでも在校生の手を借りていたが、今年度は協力してくれる広報委員を5年生まで募ったところ、90名近くの生徒たちが協力してくれた。毎回、30名程の広報委員がおり、校内見学では少数のグループに分かれて実施でき、参加した受験生、保護者から「質問がしやすかった」と大変好評であった。</p>	A

学校関係者評価
実施日2024年6月15日
意見・要望・評価など
<p>Instagramの開設・更新は愛校心を高める効果も期待できるということなので、更新は頻繁に行った方がよい。SNSは中高生にとって必要不可欠である反面、依存度が高いことも間違いないので、正しい利用方法をよりいっそう周知させる教育が必要である。</p>
<p>中学校におけるイマージョン教育は英語を聴く力を高めてくれるので、大学での授業理解にも効果的である。今後は、英検の取得や海外留学生の増加にもつながってほしい。</p>
<p>今の生徒は、コロナ禍で年間を通じて対面の授業を受けていない学年もあるので、コロナ禍前が通常であるという意識に戻していく必要がある。</p>
<p>中学校と高校では生活指導や心のケアについて異なる面が多いため、中高別に主任を置いたのはよいことである。進路指導については、全般的に教員が生徒の現状をしっかりと把握して取り組んでくれていると思われる。</p>
<p>募集定員の確保は私立学校にとって必須事項であり、さまざま工夫されていることは評価できる。例えば、小学生と保護者対象の催しだけではなく、今後は祖父母世代対象の学校見学会などの募集対策も考えてみてはどうか。</p>